

平成 28 年度 第 1 回
太田川水系大規模氾濫時の減災対策協議会

- 1 日 時：平成 28 年 6 月 1 日(水) 13:10～14:40
- 2 場 所：広島市役所 14 階 災害対策本部専用室
- 3 出席者：「委員名簿」のとおり
- 4 議事概要
 - (1) 出席者 自己紹介
 - (2) 設立趣旨、規約の確認
 - (3) 水防災意識社会再構築ビジョンに基づく取組について
 - (4) 現状の水害リスク情報や取組状況の共有
 - (5) 減災のための目標（案）について
 - (6) 今後の進め方
 - (7) その他

【決定事項】

本協議会の設立趣旨、規約について決定した。

【主な発言内容】

(太田川) 実際到大規模な出水が発生したときには、水防団による土嚢積み等の水防活動が非常に重要かつ効果的である。しかし、昨年度発生した鬼怒川では十分な水防活動が行われたか分からないが、水防団の大多数が地元消防団であり、当時住民の避難誘導の方を優先していたと思われる。こうした実情を踏まえ、太田川流域の水防団が過去にどのような水防活動を行ってきたのか、教えて頂きたい。

緊急時は、短時間で多くの情報が集まる。そういった情報共有等の連携については個別に検討していければと考えている。

(広島市中区) 過去に越水等の氾濫が起きた各エリアは、消防団（水防団）が水防活動を行っていました。また、消防団は緊急災害時等に使用できる土嚢を備蓄しており、災害時には、消防団が土嚢を積んだ実績もある。消防団は、避難誘導よりも現地の状況を確認し、水防活動を行うことを先行している。住民の避難誘導については、自主防災会等別の団体が行っています。

(広島市南区) 南区は、県管理河川京橋川、猿猴川の氾濫による影響が大きい。

この2河川の想定最大浸水想定区域図の公表はいつ頃を予定しているか。

(広島県) 太田川に併せて公表する事を予定している。